

2.10.2. 教員実績概要

職名： 教授	氏名： 渡邊慶和
--------	----------

[教育活動]

(a) 学部担当授業科目

情報システム基礎論，戦略情報システム学，ソフトウェア情報学総論，プロジェクト演習 I/II，ソフトウェア演習 A/B/C，情報システム演習 A/B/C，情報システムゼミ A/B，卒業研究・制作 A/B

(b) 研究科担当授業科目

組織システム分析特論，ソフトウェア情報学ゼミナール I/II/III，ソフトウェア情報学研究

(c) その他（教育内容・方法の工夫，作成した教材など）

教授法として集団学習（グループワーク）を実践し学生の理解を図った．独自のスライド教材作成．

[研究活動]

(a) 著書

なし

(b) 査読ありの論文誌に掲載された論文

なし

(c) (b) 以外の査読付き成果（論文誌ではない学術論文、国際会議プロシーディング、ワークショップ等）

なし

(d) 研究発表等（査読なしの論文等）

- 1) 渡邊 慶和，『IS 分野におけるM-G T A実践報告』，特別ワークショップ「M-G T Aによる I S 研究実践」第2部，経営情報学会 IS 研究方法論 (ISRM) 研究部会，2009. 5. 21
- 2) 渡邊 慶和，『ICIS2008 の質的研究発表について』，研究合宿「I S 研究リサーチメソッドの最新研究動向をさぐる」，経営情報学会 IS 研究方法論 (ISRM) 研究部会，2009. 9. 10
- 3) 耿 慧，田村 亘，渡邊 慶和，南野 謙一，岩手県立大学における中国留学生生活支援システムの実現に関する研究，経営情報学会全国研究発表大会（広島），2009. 11. 16
- 4) 渡邊 慶和，『CRESWELL のリサーチデザインについて』，経営情報学会 IS 研究方法論 (ISRM) 研究部会定例会，2010. 1. 21
- 5) 齊藤理克，南野謙一，渡邊慶和，“アルバイトの円滑な共同作業のための店舗用情報システムの活用方法”，情報処理学会第 72 回全国大会，2010. 3. 11

(e) 研究費の獲得

- 1) 共同研究（関東自動車工業）40 万円

(f) その他総説・解説，調査報告・市場調査，特許，受賞，報道など

ない

[大学運営]

(a) 全学委員会

なし

(b) 学部/研究科の委員会

研究科 SPA・PBL 委員会（委員長）

(c) 学生支援

なし

(d) その他

なし

[社会貢献]

(a) 国や地方自治体などにおける活動

- 1) 盛岡市個人情報保護審議会委員、同市情報化基本計画策定懇話会委員

(b) 企業・団体などにおける活動

- 1) 関自工 x 岩手県立大学 共同研究中間報告会 (H21 年 8 月 26 日)
- 2) 関自工 x 岩手県立大学 共同研究報告会 (H22 年 3 月 24 日)

(c) 一般教育

なし

(d) 産学連携

- 1) 岩手ネットワークシステム「地域と情報システム研究会」会長

(e) 学会などにおける活動

- 1) 情報処理学会 情報システム教育委員会委員 & ISECOM 審査委員
- 2) 経営情報学会 論文審査員
- 3) 日本情報経営学会理事
- 4) 情報システム学会理事
- 5) 日本社会情報学会 表彰委員

(f) その他

なし

[主な業績]

(ア) 情報システム(IS)のアセスメントと質的研究方法に基づく実証的研究

引き続き、ISの評価について事前評価を中心とする評価へのパラダイムシフトを検討した。また質的研究方法の一つであるM-GTA(Grounded Theory Approach)を実践的に適用して検討した。なお20年度に引き続き21年度においても3年次の演習から従来のISの分析設計手法に加えて質的研究法を演習で学ばせ、実証的研究への礎とした。

(イ) 岩手県内の市町村及び教育委員会における情報システムの役割／普及についての実践的研究

主なものとして、下記の2市村と教育施設を学生と共に訪問および指導をした。

盛岡市の情報システム更新の現状について学生と共に訪問し、情報システム部門と担当部門の役割について各担当者の声を収集した。(盛岡市 H21 年 9 月, 10 月)

滝沢村の情報システム更新について、情報システム部門と担当部門の役割について各担当者の声を収集した。(滝沢村 H21 年 6 月, 8 月)

小学校を学生とともに訪問し、小学校でのデジタル教材の普及について、3人の教師のインタビューと2クラスの授業観察を行なった。(厨川小学校 H21 年 7 月, 8 月, 9 月, 12 月)

職名： 講師	氏名： 南野謙一
--------	----------

[教育活動]

(a) 学部担当授業科目

学の世界、プロジェクト演習 I / II, 戦略情報システム学, ソフトウェア演習情報 A/B/C, 情報システム演習 A/B/C, 情報システムゼミ A/B, 卒業研究・制作 A/B

(b) 研究科担当授業科目

組織システム分析特論, ソフトウェア情報学ゼミナール I/II/III, ソフトウェア情報学研究

(c) その他（教育内容・方法の工夫, 作成した教材など）

なし

[研究活動]

(a) 著書

なし

(b) 査読ありの論文誌に掲載された論文

なし

(c) (b) 以外の査読付き成果（論文誌ではない学術論文、国際会議プロシーディング、ワークショップ等）

- 1) 南野謙一, “創造的活動における知識の組織的な活用方法に関する研究”, 東北大学電通談話会記録, Vol178, No. 2, pp. 83-86, 2010.

(d) 研究発表（査読なしの論文等）

- 1) 耿慧, 田村亘, 渡邊慶和, 南野謙一, “岩手県立大学における中国人留学生生活支援システムの実現に関する研究”, 経営情報学会秋季全国研究発表大会, 2009.
- 2) 齊藤理克, 南野謙一, 渡邊慶和, “アルバイトの円滑な共同作業のための店舗用情報システムの活用方法”, 情報処理学会第 72 回全国大会, 2010.

(e) 研究費の獲得

- 1) 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構東北農業研究センター平成 20 年度新規交付金プロジェクト「Google マップによる気象予測データを用いた双方向型水稻気象被害軽減システムの開発（Google 被害軽減システム）」における委託課題「Google マップ上で稼働する情報共有型 web システムの開発」（プリマ, 南野）

(f) その他総説・解説, 調査報告・市場調査, 特許, 受賞, 報道など

なし

[大学運営]

(a) 全学委員会

なし

(b) 学部/研究科の委員会

評価委員会, 広報委員会

(c) 学生支援

なし

(d) その他

なし

[社会貢献]

(a) 国や地方自治体などにおける活動

なし

(b) 企業・団体などにおける活動

なし

(c) 一般教育

なし

(d) 産学連携

- 1) 岩手ネットワークシステム「地域と情報システム研究会」幹事

(e) 学会などにおける活動

なし

(f) その他

なし

[主な業績]

東北農業研究センターでは水稻冷害早期警戒システムを 1996 年より Web 上で運用しており、発育予測、葉いもち病発生予測、低温障害予測などを東北の生産者に提供し、早期警戒に役立てている。しかし、(1) 個々の生産者の圃場や品種に対応できていない、(2) 生産者が自ら閲覧しなければ警戒情報を取得できない、(3) 同様に自ら必要な対策情報を取得し自分の圃場・農作物に合った対策をとらなければならない、などの問題がある。

そこで本研究では、(1) WebGIS (Google マップ) を用いて、個々の生産者の圃場や品種に対応した精度の高い予測情報を提供する、(2) PC・携帯電話を用いて、能動的に警戒・対策情報を提供する、(3) 生産者が容易に具体的な対策をとれるように、他の生産者との情報交流を支援する、を目的とした知識共有型水稻気象被害軽減システムを提案する。本年度は、プロトタイプシステム開発し、モニター（東北地域の米生産者）を対象に評価実験を行った。その結果、「情報提供のおかげで葉いもち病対策がしっかりとできた」「警報メールのおかげで安心感が持てた」といった意見が多く寄せられ、システムの有用性を確認することができた。本システムの動作を下図に示す。

